

## 正戦論（2）

— キリスト教とイスラームの視点から —

## Overview

- キリスト教の場合
- イスラームの場合
- 日本の場合

## キリスト教の場合

## 正戦から聖戦へ

11世紀ヨーロッパにおいて、キリスト教の純化をもとめた教会改革（聖職叙任権闘争＝司祭などの叙任権を神聖ローマ皇帝とローマ教皇が争う）が起こる。

教会（聖）の指導による  
世界（俗）の浄化



聖地エルサレムの浄化  
（十字軍）

## 聖戦の克服、そして戦争の拡大

- 十字軍や三十年戦争を経て、近代ヨーロッパ（主権国家）は宗教を政治の世界（公的領域）から区分・排除し、「聖戦」を排除していった。
- 正戦論は世俗化される形で、国際法の議論の中に継承されていったが、現実には、主権国家同士は勢力均衡政策（**balance of power**）のもと軍事力を増強していった。結果的に、一部の国の軍事大国化を抑制することはできなかった。

## 正戦論を主張する神学者

ポール・ラムジー（1913-1988）

- 「戦争における正義」（**ius in bello**）を要請するのは「隣人愛」。
- 「よきサマリア人」（ルカ10:30-37）のたとえ：もしあのサマリア人が追いはぎによる犯行の現場に出くわしたとするなら、イエスは彼にどのような行為を求めたであろうか？
- 「抑圧を受けている人間がもう一方の頬も打たれるように、弟子たちは彼の顔を上げてやるべきだとはイエスは要求しなかった」。
- 「もし正戦論がまだ存在していないとすれば、キリスト者はそれを作り出さなければならない」。

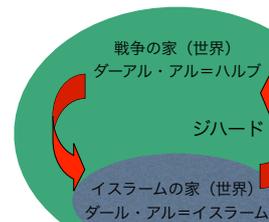
## マイケル・ウォルツァー

- **jus ad bellum** に関して精緻な基準を立て、それと膨大な歴史上の事例を照合させていく。
- 明らかに人道的介入が認められる事例は、きわめて少ない。自衛のための先制攻撃を認めるが、そのためのハードルは高く設定されている。また、テロリズムとゲリラ戦とを区別し、前者を犯罪として処断するが、後者には一定の道徳的意味を認めている。*Just and Unjust Wars* (1977)

## 人道的介入

- 近年では「正戦」が声高に主張されることはないが、被害者救済を目的とする「人道的介入」も、広い意味で正戦論の枠組みで考えることができる。
- 人道的介入をめぐる議論：コソボ紛争（1996-1999年、ユーゴスラビア軍およびセルビア人勢力と、コソボの独立を求めるアルバニア人のコソボ解放軍との戦闘）の際のNATO軍によるユーゴ空爆（1999年）。
- 参考：人道的殺人？ ヒトラー暗殺計画に荷担したドイツの神学者・牧師ディートリヒ・ボンヘッフアー（平和主義を主張）

## イスラームの場合



汝らに戦いを挑む者があれば、アッラーの道において堂々と迎え撃つがよい。だがこちらから不義をし掛けてはならぬぞ。アッラーは不義をなす子どもをお好きにならぬ。(クルアーン2:190)

## 伝統的なジハード理解

- 大ジハード：自我との戦い
- 小ジハード：異教徒との戦い
- 戦争論の類型としては、ジハード（小ジハード）は「聖戦」ではなく（広義の）「正戦」に分類されるべきではないか。ところが、日本のマスコミ表記では、しばしば、「**ジハード（聖戦）**」とされている。この表記は偏見と誤解を招きかねない。

## 現代におけるジハード

- イスラーム社会の内部に向けられる場合
- イスラーム主義者が世俗政権を打倒するためのジハード
- イスラーム社会の外部、とりわけ「西欧」に向けられる場合
- 急進派の立場からは、非ムスリムの異教徒（元来は多神教徒）は「偶像崇拜者」として批判の対象とされる。世俗主義のヨーロッパ、軍事力でイスラームを抑圧するアメリカなどが、イスラームの戦うべき「敵」と見なされる。また、現代は新たな「無知の時代」（ジャヒリヤ）と見なされる。

## 日本の場合

日本国憲法前文から導き出される「平和的生存権」は、護憲派にとっては戦争放棄（**平和主義**）を意味するが、改憲派にとっては、自衛隊の存在根拠（＝国土防衛）として解釈される。自衛隊の明文化を求める改憲派は「**正戦論**」の立場を取っていると言える。

## 【参考文献】

- Ramsey, Paul, *The Just War: Force and Political Responsibility*, New York: Charles Scribner's Sons, 1968.
- マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』風行社、2008年。
- 山内 進編『「正しい戦争」という思想』勁草書房、2006年。
- 最上敏樹『人道的介入——正義の武力行使はあるか』岩波書店、2001年（岩波新書）。
- 内藤正典『イスラーム戦争の時代——暴力の連鎖をどう解くか』日本放送出版協会、2006年。
- 古賀幸久『イスラーム国家の国際法規範』勁草書房、1991年。